

## 知床五湖登録引率者審査部会（第 22 回）議事概要

日時：平成 27 年 1 月 30 日（金） 15:30～17:00

場所：斜里町 ゆめホール知床 1F 会議室 2

出席者：松永・永瀬（環境省）、梅嶋（オホーツク総合振興局）、岡田・高橋（斜里町）

代田（知床斜里町観光協会）、岡崎（知床ガイド協議会）、古坂（自然公園財団）

若月・笠井（引率者代表）、秋葉・葛西・佐藤・江口（知床財団）

<概要>

平成 27 年度ヒグマ活動期の運用について議論し、事務局案が概ね承認された。昨年からの変更点として、小ループツアーはヒグマ活動期全期間を通じて 1 日 4 回実施することとなった。タイムテーブルも変更し、9:00 発のツアーは大ループツアーと同時出発する方向とし、これらの案について、登録引率者の確認後、次回あり方協議会での承認を諮ることとなった。登録引率者の養成研修については、新規募集を強化すること、既存の引率者の技術向上に取り組むことが確認された。

(1) 平成 27 年度のヒグマ活動期の運用方法について（●：主な意見 ✓：まとめ）

ツアアの枠数・出発時間・2 ルート同時出発について

- 昨年の小ループツアーのスケジュールでは、担当引率者の休憩時間が取れないことやバス利用者の参加が難しいといった課題があった。今回の事務局案では、これらを考慮したスケジュールとして提案した。当番引率者の拘束時間は 1 時間長くなる。（松永）
- 昨年の実績を踏まえ引率者で打合せを実施した結果、地域からの要望もあり、小ループツアーをヒグマ活動期全期間で実施することで合意した。ツアー料金の配分方法については、昨年と同様に共済制度を導入して調整したい。（若月）
- 混雑する時間帯の 2 ルート同時出発は、フィールドハウスの運営面からは賛成できない。過去のデータからも受付手続き、認定事務が混乱する可能性が高い。1 枠に 1 ツアーを基本としたい。（秋葉）
- 最も需要がある 9 時のツアー枠を減らすことは、引率者の合意が得られない。小ループ専用の予約サイトを作り、小ループツアーの受付事務の負担軽減をしてはどうか。（若月・笠井）
- 昨年に制度改定を実施したことで同時出発は可能となっている。今後の制度運用の観点からも、同時出発等の試行は必要である。（松永）
- ✓ 平成 27 年度のツアースケジュールは、小ループ 4 枠、大ループ 33 枠（同時利用 1 枠含む。昨年より 1 枠増加）の計 37 枠。9:00 のツアー枠は 2 ルート同時出発を実施する。
- ✓ 小ループツアーをヒグマ活動期全期間で実施する。申込み受付事務は、昨年と同様にガイド協議会がカウンターを設置し、業務を知床財団に委託する。
- ✓ 2 ルート同時出発を実施するにあたって、以下 4 点を確認した。①今後、同時出発はこれ以上安易に増やさない。②ガイド協議会は、費用面を含め申込み受付事務の増加を考慮したカウンター運営を行う。③引率者は集合時間を厳守するなど、円滑な制度運営に協力する。④運用に不具合があった場合は、翌年に中止を含めた再検討を行う。

**2 湖展望地の利用について**

- P 地点付近にてヒグマに遭遇した際、ツアー時間中に帰着することは難しいため、小ルートツアーにおける 2 湖展望地の利用は見合わせたい。2 湖が展望できる Q 地点の階段下を見どころとして PR することとし、そこまで立ち寄れるという整理にしたい。（若月）
- 2 湖展望地まで行けないことについて、利用者からのクレームはない。（若月・岡崎・笠井）
- ✓ 小ルートツアーのコースは昨年通りとするが、2 湖の見える Q 地点近傍への立ち寄りを認め、この場所をツアーのハイライトとして PR する。

**遊歩道整備について**

- 遺産登録 10 周年記念事業として遊歩道の整備・修繕をこの機会に実施して頂きたい。観光協会としても様々な場で北海道に要望したい。（代田）
- カラマツ材高騰等の影響もあり、本年度の修繕工事は、必要箇所の約半分程度の実施に留まった。工事予算は計 210 万円である。仮に抜本的な再整備を計画する場合、撤去費用だけ数千万の見積であり、ヘリコプターを使用すればさらに予算が必要となる。また近年、こうした工事は受託業者が見つからないという問題もある。（梅島）
- 現状において最も喫緊の修繕箇所は Q 地点付近である。（古坂）
- 現状は部分的な補修で対応しているが、対症療法的であり限界は近い。近い将来、何らかの抜本的な再整備は必要となる。これに備え、今のうちから整備のあり方について検討を始めることが重要。（葛西・秋葉）
- ✓ 遊歩道整備に対する考え方として、第 1 段階として最低限の補修・修繕の要望を続ける。第 2 段階として、より安全で魅力的な整備案を準備し、将来に備える。

**(2) 平成 27 年度の登録引率者新規養成について（●：主な意見 ✓：まとめ）**

- 近隣地域からも引率者を募集するためには、2 泊 3 日の研修でカリキュラム 3 分の 1 を修了できるといった工夫が必要。北海道アウトドアガイド資格との連携なども考えられる。（秋葉）
- 羅臼を含めた近隣地域からの参入を促すためには、経験や実績を踏まえてカリキュラムを軽減するなどの措置が必要。特に羅臼地区のガイドなどはこうした措置の対象となり得る。（笠井・岡崎）
- 斜里と羅臼それぞれに拠点を置いたガイドがいるが、利用者にとっては同じ知床であり、両エリアを熟知し案内できるガイドが育成されることは望ましい。羅臼地区で説明会を開催するなどしてはどうか。（岡田）
- 新規養成に関するチラシなどはわかりやすい内容とし、HP 等でもしっかりと広報すべき。
- ✓ 引率者の募集を強化するため、近隣地域への広報、PR を行う。
- ✓ 原則として大幅なカリキュラムの変更やスケジュール案、日程の変更は行わない。試験の要件として救命救急講習の受講を追加する。また、自主引率の実施可能場所の拡大について考慮する。将来的にリスクマニュアルの追加・改訂を検討する。

**(3) 平成 27 年度の既存の登録引率者研修について（●：主な意見 ✓：まとめ）**

**自主研修について**

## 150312 知床五湖の利用のあり方協議会（第 33 回）

- 昨年自主研修として実施した英語研修は好評だった。救命救急等の講習もよいテーマだと考える。来年も全ての引率者の利益になる研修を企画・実施したい。（秋葉）
- ✓ 来年度も自主研修を企画・実施する。予算については審査部会会計から支出する。

### スキルアップ研修について

- 昨年から開始したスキルアップ研修については、来年は任意研修としたい。強制ではなく、必要な引率者に機会を提供する環境があればよい。（松永）
- スキルアップ研修は、異なる目線を獲得でき有意義だった。しかし、域外の引率者にとっては負担かもしれない。（若月）
- 経験の少ない若い引率者にとっては、知識の積み重ねという意味で有意義である。（岡崎）
- 任意研修とすると、積極的に参加する層と無関心層に二分化される。制度としても引率者の質が大切である。必須カリキュラムとして継続すべき。（葛西・秋葉）
- 引率者のサービスや質を一定のレベルに保つためにも、他者にチェックしてもらい本人にフィードバックされる研修は有効。（岡田）
- ✓ スキルアップ研修は任意研修とする。
- ✓ 既存引率者の実地試験免除となる自主引率回数は計 20 回に定め、小ループツアーも回数に含むものとする。

#### (4) その他（●：主な意見 ✓：まとめ）

特になし。

#### 次回・今後の予定

3月実施予定の知床五湖の利用のあり方協議会（第 33 回）にて今回の協議内容の報告を予定。